

きょうされんBookNavi

「北欧 考える旅」

定価 1785 円(税込)

はじめに

- 【フィンランド】
- 1、フィンランド 学力世界一の秘訣
 - 2、オーロラ小学校のインクルージョン
 - 3、子どもたちの居場所?放課後保障
 - 4、最重度の人たちと共に生きる
- 【スウェーデン】
- 5、学ぶことはたらくこと?特別高校とディケアセンター
 - 6、ニールスと移動保障
 - 7、ITと障害者
 - 8、統一選挙

【デンマーク】

- 9、仕事・体験センター再訪
 - 10、クロンボーフスの10年?施設からグループホーム
 - 11、夢は夜ひらく?余暇と人生
 - 12、障害児学級と場の統合
 - 13、バリア・フリーの街で
 - 14、大規模居住施設・スールンのいま
 - 15、自立の条件
 - 16、「高負担!だから高福祉?」ではない思想と実践
- おわりのはじまりに



全障研事務局長の北欧ノート
 北欧の日常に権利条約がある!
 写真155点とエッセイで綴る
 やさしく希望ある人ひとの暮らし
 JD すべての人の社会 好評連載
 に大幅加筆!
 全障研出版部

.....評者.....

きょうされん顧問
 立岡 暁

学力世界一の秘訣、最重度の人たちと共に生きる、学ぶことはたらくこと、自立の条件、等々：ページを繰るたびに知りたいことが次々と飛び出してくる。「北欧考える旅」は、菌部英夫さんがこの道の専門的視野から何と6回も渡航して、とことん納得のいくまで見聞し確かめた上で、その中間報告として出版されました。

著者は長きにわたり全国障害者問題研究会の事務局長として、わが国の民主的障害者問題研究に打ち込んでこられた人だけに「北欧の国」を将来、我が国のあるべき姿と位置付けられたのでしょうか。具体的にはこの著を読み込む中で、そのことがはっきりと見えてくる

のです。

私も著者のお誘いを受け北欧を2度訪問したのですが、例えばデンマークのホイバンゲン作業所（現在は仕事・体験センター）では日本と同じように様々な障害のある人たちが自宅から毎日通い、機織り作業や家具など木工品の製造販売をされており、日本の作業所とよく似ているのです。

しかし決定的な相違点として明らかになったのは、ホイバンゲン作業所では支援するスタッフと支援を受ける利用者の毎月の所得がほぼ同額と言うではありませんか。作業所づくり運動を積み上げてきた私も、この事実には「本当に?!」として「目からうろこ!」でした。

障害者自立支援法による利用者負担に苦しめられる私たちが北欧を知れば知るほど、この著書を読めば読むほどに、日本の福祉が常道から外れていることが明確に浮かび上がり、めざすべき方向が明らかになってくるのです。デンマークのバンクミツケルセン氏が提唱したノーマライゼーションとは、まず所得を同等に保障することで

あり、すでにそのことは実現されていたのです。

他にも学ばねばならないのは障害のある人の自立です。きょうされんは21世紀初頭に日本の民法877条「扶養の義務」を改正し、家族の責任ではなく社会が責任をもつようになることをめざしています。しかし、北欧では「障害があろうとなかろうと、18歳になれば子どもは家庭から独立し、その後は社会が責任をもつ」(P4)と著者は述べています。つまり18歳になればどの人も両親と別れ、スーアのさめない地域で暮らせるように社会がそのシステムを保障しているのです。

さらには北欧通でもあり、カメラマンでもある著者が撮られた多くの現地写真は、読む者を北欧各地に連れていってくれる楽しい夢のある一冊となっています。あなたも熟読される中できっと夢が広がり、いつかは北欧に出かけたいなることでしょう。その時にはぜひとも著者にご相談ください。

(たておか あきら)

